（別紙4）

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 2470501418 | | |
| 法人名 | 有限会社 すずらん | | |
| 事業所名 | グループホーム潮風 | | |
| 所在地 | 三重県津市阿漕町津興214－2 | | |
| 自己評価作成日 | 26年10月5日 | 評価結果市町提出日 | 平成27年2月20日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470501418-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 26 年 10 月 22 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者のみならずご家族も含めての大家族と捉えている中では、日常的にご家族様との交流がある。入居者の方を中心に職員ともざっくばらんな関わりを持って頂いており、実家のように、気軽に、日常的に寄って頂いている。オープンで明るく、家庭的な雰囲気が自慢です。昔取った杵柄を発揮して頂く中で、職員と一緒に家事を協働している。。終の棲家としてご本人ご家族の最期の迎え方を尊重し、グループホーム潮風において看取りをさせて頂いている。終末期の迎え方についてはご家族様の方向性に寄り添い柔軟な対応を行っている。主治医の指導を基にご家族様と心を合わせ、心穏やかなに終末期を過ごして頂く中で、尊い看取りへと繋げさせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は津市海岸に近い住宅地の中に立地しており、玄関ポーチが道路に面しているため近隣の住民が訪れやすい。ポーチに置かれたベンチは日当たりもよく、利用者の外気浴に利用され通行人との交流の場になっている。また、海岸に近いため津波災害への危機意識が高く、災害への備えを事業所・家族・地域と一緒に行っており、管理者の豊富な知識・アイデアで災害食の炊き出し訓練も行う予定である。『その人がその人らしく暮らせるため』にケアの実践を行い、終の棲家として最後まで事業所で住みつづけるために本人・家族の意向に寄り添い主治医の指示の下、柔軟な対応を行っており開設時より12名の看取りを行い職員のスキル向上にもつながり地域からの信頼も強い事業所である。事業所が企画する『減塩味噌つくり』は地域・家族に好評であり、毎日の食事つくりもメニューの工夫や丁寧な行事食の提供などにより入居後栄養状態が改善され体力が回復した利用者もおり、家族的雰囲気が随所に感じられる事業所である。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項 目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項 目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | ○ | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | ○ | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援、笑顔あふれる暮らしを大切にしている。入居者を中心にご家族様職員が思いをひとつにした日常的な関わりを持つ中で、我が家に居るようにのんびりと過ごして頂いている。 | 『その人がその人らしく暮らせる』の理念を共有し忙しくてもゆったりを心がけ、利用者一人一人を中心によりそうケアの実践を行なっている。理念の振り返りは日々行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会・子供会・幼稚園等の行事に参加したり・協力したり等日常的な交流をしている。地域の一員として又健康作りの一環として減塩味噌作り・ごきぶりだんご作りは定着している。防災については近隣自治会の協力体制も頂いている。 | 自治会に加入し地域の行事に参加したり、近隣の幼稚園児が定期的に訪れ一緒に手遊びを行う等交流が続いている。ハロウィン行事では仮装した子供達がお菓子をもらいに訪れ、利用者の楽しみな訪問になっている。また、子供は成長しても事業所を覚えており、事業所が自然な形で地域の一員となっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症と家族を支援する為定期的な介護相談会に支援者として参加している。認知症の専門施設として、いつでも気軽に相談して頂ける窓口である事を、行事の機会を通して発信している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 偶数月の第三金曜日を定期開催として計画的に参加して頂いている。潮風の現況報告、その都度の課題を話し合い、行事等に反映させている。災害対策は永遠のテーマであり取組みの実情を報告し確認して頂いて。 | 津市介護保険課の職員・民生委員・家族・地域ゲストを交えて2か月に一度開催している。近況報告や今後の予定など情報交換を行いサービス向上に活かしている。また、会議はリビングで開催しており、事業所内・利用者の様子を見ながら会議を行っている。看取りを行った家族がゲストで参加され感謝の言葉をいただいた。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 疑問点等日常的な相談に対して気軽に応じて頂いている。その都度細やかなアドバイスや指導が頂けるのでとても心強い。 | 運営推進会議に参加時に事業所の様子を見てもらい、相談ごとは随時、担当部署に出向いており連携を取っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアについては、その具体的な例を挙げ説明している危険を回避するための。個々に適した方法については、ご家族や職の員意見を踏まえた、その都度最適と思われる方法を検討している。 | 身体拘束・言葉の拘束について、日々のケアの事例を基に理解に努めている。家族の意向、職員の意見を取り入れ、危険を回避するための最善の方法を検討し家族にも理解を得ている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 法律の内容、課題背景を示し虐待のない介護を徹底している。介護リスクを全体の問題として捉える中で情報を共有し、職員の介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護についてはマニュアルを常備し理解に努めている。1名の方が成年後見制度を利用されている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居に至るプロセスをお聞きしていく中で、ご本人やご家族の思い要望等を、十分に傾聴し話し合いを深めるようにいる。潮風とご家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約としている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の関わりの中で思いを言い出しやすいように声掛けをしている。面会時を利用してご本人の状態を示し、近況報告を行う中でご家族の思いや要望を聞かせて頂き、要望の実現に向けた支援を工夫している。 | 定期的にお便りを発行し利用者の近況報告したり、面会時を利用し利用者の様子を伝えるなど、家族との信頼関係を築くよう日々努めており、要望が伝えやすい雰囲気作りを心がけて家族の意向を聞き取っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々の業務の中で情報の共有、情報交換を密にしている。情報共有ノートを日常的に活用しその時々の意見や提案、困りごとなどについてを記入し、リアルタイムでの問題解決へと繋げている。 | 明日に持ち越さないことを心がけ、日々の情報交換ノートでの記載、管理者との話し合いの時間をもち、改善への対応を行っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 出来る限り個々の職員のライフスタイルを優先した勤務スタイルの実現に努めている。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心がけ、頑張った職員が報われるような賃金体系へと繋げている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 苦手分野のある職員には力量のある職員や管理者が克服に向けたサポートを心がけている。自信を積み上げる中で個々の力量が高められるようにその都度可能な方法で資質の向上に向けた指導や内部学習に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型協議会・認知症家族の会・地域包括支援センター・小規模ケア研究会・医療関係者との交流を深める中で見聞を広めたり、その研修等を活用しサービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントした情報等を含めた中でゆったりと傾聴し、本人の願いや希望等、本人の真の思いを引き出すようにしている。寄り添う中で信頼関係を築き、安心感を持って頂けるような関係つくりへと繋げている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設入居に至るまでの苦悩や葛藤をゆったりと傾聴する中で、不安に思っていること、求めていること等を把握、本音が吐き出して頂けるような対話を心がけ信頼関係が構築できるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 表面的な訴えだけに捉われる事なく対話していく中から真に必要としている事を見極めていく。相談内容を傾聴する一方で専門職としての見解を示し必要な支援へと繋げていくように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の家事等個々にできることは職員と協働で行って頂き、共に仕事をする中で得意を発揮して頂くようにしている。そのような機会が本人の意欲を引き出し、自信の回復及び生活力への喚起へと繋がっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者・ご家族・職員がひとつの家族であり日常的に気軽な交流があります。、本人にとって潮風は我が家であり、ご家族にとっては実家でもあり、家族に囲まれての潮風での看取りが、尊厳ある最期・意義のあるものへと繋がっている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の希望やご家族の情報等を聞かせて頂き、今までの本人を取り巻く関係等を勘案する中で、可能な限り入居までの関係が途切れないように支援し、大切にしている。 | 利用者9名のそのほとんどは近隣在住者であり、家族はもちろん友人の訪問もありなじみの関係が途切れないよう事業所としてできる支援をしている。また、お墓参り、法事への参加は家族支援で継続してもらっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 本人の性格・趣味・職業等、今までの生活環境又身体状態を勘案しながら相性の良い方を見極め、関係作りへと繋げていくように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院された方、潮風で看取りをさせて頂き退居された方、そのご家族が立ち寄って下さり、現在も日常的に交流させて頂いている。行事等にも声掛けを行い参加して頂いている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人やご家族の思い希望をしっかりと傾聴する中から、ご本人にとっての最適な方法を引き出していけるように努めている。 | 日々の寄り添うケアを大切にしており、利用者の希望・意向を把握するように努めて、暮らしやすさにつなげている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や過ごし方など、ご本人ご家族からの情報の基、今までに慣れ親しんだ暮らし方が尊重出来るように常に心掛け、生活に反映出来るように支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるよう側面的な支援を心掛けている。その時々の思いや希望を取り入れた生活が可能となるように支援している。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人ご家族がどう過ごしたいと思っていられるか随時聞かせて頂く中で、細かな状態の変化に応じた支援方法を検討を日々重ねる中で十分な話し合いを深め、本人らしい生活の実現に向けた介護計画を考案している。 | 家族の意向は日々の面会時や年1回開催の家族会を利用し、職員からは日々のケアでの変化を記入しており、変化に応じた介護計画の見直しは随時行っている。介護記録表にケアプランを添付し職員全員が共有している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録を基本に捉える中でリスク管理するために必要な情報の共有、特記の記録、個々の状態に応じたリアルタイムでの詳細な援助方法を情報共有ノートとして日常的に活用し個別な支援へと繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。日常的にご家族との交流もありその都度の状況に応じた最適な方法を話し合う機会となり柔軟な対応が可能な環境となっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 自治会・子ども会・民生委員・幼稚園・ボランティアさん等の協力をはじめ、医療福祉関係者等との交流を通して社会性の充実を図り、安心して安全に楽しんで暮らせる生活作りに努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 個々の入居者・ご家族の意向を反映した上で、協力医による定期往診及び24時間対応による随時の相談・往診体制をとっている。 | 利用者・家族の意向を聞き取り、希望のかかりつけ医となっている。協力医は月2回の往診があり、従来のかかりつけ医受診の方は家族支援にての受診である。受診には、管理者も同行し情報の共有を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 連携医院の看護師には日常的に相談している。医師の所見等を含めたアドバイスがその都度ありとても安心感が持てる体制を構築している。又地域の看護師等との交流も多く情報交換も密にしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族・医師・看護師・ソーシャルワーカー・病院関係者との交流を日常的に行う中で、そうした時に最善な対応が可能となるような関係作りの構築に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期のあり方については、日頃からご家族・主治医との話し合いを重ね、万が一に備えている。並行して個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、その方とご家族にとっての最善な終末期ケアに向けて意思統一を図っている。 | 開設時より12名の看取りの実績がある。入居時より終末期ケアについて説明を行い、同意書を作成している。主治医と家族との連絡を密接にとり、職員間では情報の共有を行って最後の時まで穏やかに過ごせるよう支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 個々の身体状況については各職員が日常的に把握し予測される事態に備えている。一方で慌てず的確行動、適切な対応（応急処置含む）が可能となるよう日常業務の中で話し合いを深め実践に繋げている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時の対応については、その時々の有効な具体的な方法等を、リアルタイムで情報発信している。入居者への意識付けをはじめ、ご家族への情報共有も欠かさず行っている。又地域との情報交換の場として運営推進会議を活用している。 | 飲料水・食糧・生活用品等を災害用に備え、運営推進会議を利用した防災の情報交換等、職員・利用者・家族とも災害への危機意識の啓発、災害対策等事業所から発信しており、家族・地域との連携も密に行っている。 | 海岸に近いため津波災害への対応を、定期的な訓練はもちろん日常的に、災害に対して危機感をもち、近隣・家族を巻き込んだ災害対策に取組まれるよう期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々のプライバシー・プライド・人格の尊重等については職員間で十分に意思統一を図り、個々に応じたその人にふさわしい対応をその都度工夫している。 | 日々の寄り添うケアの中で、プライバシーやプライドを損ねないように利用者本位になり対応している。また、利用者の人格を大切にして食事の席の位置を決定している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の気持ちに寄り添う中でその時々の思いを共有共感し、真の思いが意思表示して頂けるように側面的な働きかけをおこなっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自信を持って生活して頂けるように職員はさりげなく、その日の身体の状態や精神面に配慮しつつ、本人の希望を取り入れた過ごし方が可能となるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着心地、着脱を優先しつつ、アクセサリー、マニュキュアなど希望あるおしゃれを楽しんで頂くようにしている。ご家族の方の眉そりボランティア訪問も楽しみのひとつとなっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 栄養だけに捉われずその日の入居者のリクエストに応えたり、旬の食材を献立に加えたり食事が楽しみとなるように工夫している。又大家族のようにテーブルを囲み会話しながらの食事も楽しみな貴重な時間となっている。 | 食材の差し入れ、利用者の希望、体調に合わせて日々の献立を工夫している。利用者は野菜の下準備等できることを手伝い、職員も一緒に食事をとっている様子は家族的な雰囲気である。クリスマス会・ひなまつり等行事食も楽しみなものになっており、お正月のおせちも職員の手作りである。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | カロリー、栄養配分、水分量、好み、主治医等の意見を勘案する中で個々の摂取の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理方法や好みなどを配慮しながら、食事を楽しみとして頂けるように努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後残差物を除去する等個々に必要な口腔ケアを実施している。朝夕の歯磨き、うがい等で口腔内を洗浄。義歯については、夜間は外し洗浄後ミルトン消毒している。個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿意のある方曖昧な方を問わず、特別な事情がない限り日中はトイレ使用を基本とし、自然な排泄が可能となるよう支援している。定期的。随時に気配や訴えに対応する中で側面的な自立支援へと繋げている。 | 個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄へ誘導している。夜間も見守りの中、音・訴えに対応し排泄自立の支援を行っている。入居後、布パンツ利用に戻った利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排泄リズムを確認した上で食生活を工夫し整腸に努めている。必要に応じて腹部マッサージを試みたり、体操、散歩、歩行訓練等気分転換も兼ねて、楽しみながら行えるような日課作りに努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 清潔保持・血流の向上・爽快感等を視野に入れた健康管理の手段として、特別な事情のない限り毎日入浴としている。自然な日課のひとつとなり楽しみにされている。気分転換にもなり、健康維持に多いに繋がっている。 | 毎日午後から入浴でき、ほぼ全員が毎日入浴しており、一日のリズムが出来ている。体の清潔・血行促進・気分転換等、健康維持のための支援を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は出来る限り楽しみな時間を共に過ごせるようにしている。個々の状態に合わせた中で屋外で日光浴や散歩を楽しむように心掛け夜間の安眠へと繋げている。個々の眠りに合わせた就寝、起床時間を優先している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の処方箋にて薬効・薬害・服用方法を確認する事を基本とする一方で情報共有ノートを活用し全職員認識を深めている。又日常の関わりの中の、微妙な変化を察知する視点、を常に持ち日々関わるように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 能力に応じた家事を手伝って頂く中で、自信の回復。自信の喚起へと繋げるようにしている。職員をも含めた大家族の中で出来る家事を分担し、協働する事が、自身の役割意識・連帯感・達成感へと繋がっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外気浴や散歩は近隣の方とのふれあいや季節を感じて頂く機会になっている。機会を見つけて外出外食等随時対応している。又ご家族とも外出・外食を楽しまれている。自治会・子供会・幼稚園・ボランティア訪問等行事も交流の機会となり楽しまれている。 | 洗濯物干し・散歩・外気浴が日課になっており、近隣の人ともふれあいが出来る。気候がよく体調がよい時は、近くの海岸まで散歩に出かけることもある。また、八幡神社への初詣・梅・桜の花見等季節行事は楽しみな外出になっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人やご家族の意向に沿って対応させて頂いている。小遣い程度を自身で持ってみえる方もおられるが、希望される物を献立に加えたり、おやつに取り入れている中では、使い道もなく自身で持っているという満足感にとどまっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や知人との交流が活発に継続して頂けるように支援している。その都度の訴えに耳を傾けながら、その時々の思いの実現に必要な支援に努めている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 食堂・リビング等の共同スペースは邪魔にならないような音量でBGMを流し柔らかな空間としている。玄関や廊下、居室には季節行事・個人の写真等思い出のものを掲示、満足気に眺めては会話の糸口にも繋がっている。 | 天窓から明るい光が差し込みホール・廊下は明るく掃除も行き届き清潔に保たれている。各部屋の表札には氏名だけでなく緊急時対応方法も記載してある。居間のテーブルは、車椅子でも使いやすいよう工夫されたものを使用している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング等はふれあい・交流を楽しむ空間として、ソファでは親しい人とのおしゃべりやご家族や知人の方との寛ぎの場として、独りになりたい時は居室に行かれたりと、家庭的な雰囲気の中で思い思いに自由に過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 慣れ親しんだこだわりのものを個別に使用して頂いている。違和感なく落ち着いた気持ちで過ごして頂けるような環境（居室等）作り等をご本人ご家族と十分に話し合いながら実現している。 | 使いなじんだものや便利なパソコン・携帯電話を持ち込んだりして、その人らしい部屋つくりを行っている。部屋の不案内な利用者には識別できるよう大きさや見やすいよう工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の出来る事、出来ない事の詳細の把握に努める中で状態に応じた支援を心掛けている。残存機能を含めた身体・精神機能を勘案しながら個々の動きに合わせた動線を確保し自立に向けた側面的支援に努めている。 | | |